

〔曲名〕 Polonaise

ポロネーズ

〔曲種〕

〔作曲者〕 Charles Acton

シャルル アクトン

〔編曲〕 F.Francia e Jiro Nakano

フェルナンド フランチア及び中野二郎

作者については日本マンドリン連盟本部会報74号（1985年4月1日発行）に載せたが、簡略乍（なが）ら此処に再掲しておく。

1829年8月25日ナポリに生まれ、1909年2月2日ポルティーチに逝いたイタリアの作曲家。

故郷ナポリに定住して音楽活動を展開したが、その作品の中では主としてピアノ曲が独特の華麗さによって名声を獲得した。

その他、オペレッタ、音楽劇、合唱曲、室内楽があり、オリジナルのマンドリン曲を数多く作曲した。時恰（あたか）もマンドリン音楽に澎湃（ほうはい）と興隆しつつある時に際会し、南欧の明るい甘味な旋律は人々の愛好するところとなった。

作品はミラノの由緒ある大出版社リコルディに集中、グラツィアーニ・ワルテル、ベクッチ、メツァカーポ、などとともに日本に早くから紹介された作曲家である。

出版社の曲名には仏語が用いられている。

筆者がマンドリンを始めた頃（大正10年前後）共益商社（現・日本楽器）を通じて

イタリアのリコルディ出版社から取り寄せたマンドリン楽譜に8冊のイタリアン・マンドリン・アルバムがある。

各巻大体12曲ほどのマンドリン合奏曲が収められているが、その第2巻の中にこの作者アクトンの“ゴンドラ漕手の唄”と、“花と蝶”の2曲があり、

初めて知るイタリアの甘味な旋律に随喜した思いを忘れることは出来ない。

にも拘らず本邦では殆んど馴染まれていない。と云うのは合奏の形が二つのマンドリンとピアノ又はギ

ターに書かれているために、

その俎（まま）では上演される機会がなかったことによる。

本曲ポロネーズは珍しくマンドリン独奏曲として書かれているのをフランチアが二つのマンドリンとギター
の形に編曲したものに、

更に筆者が楽器を加えて二重の手が入ったもので、イタリアでもこうした例は沢山ある。

この作者がマンドリンによせた関心の本曲だけで想像するのは無謀なので、この機会に、判明している
全作品を一瞥（べつ）しておいて頂きたい。

肖像を紛失してしまったのが残念である。

1993年 11月 発行

マンドリン合奏曲集9集（JMU版 パート譜付）より